

【草花の部屋】

バクヤギク (ハマミズナ科カルポプロツス属 *Carpobrotus chilensis*)

和名：バクヤギク (莫邪菊) **別名**：カルポプロツス・キレンシス

英名：Hottentot Fig

ナデシコ目 常緑多年草・多肉植物 **原産地**：南アフリカ

花言葉：別れ、しばしの憩い **花の色**：黄、白、桃



← 写真-1 バクヤギク

撮影日：2018年04月19日

撮影場所：スニオン岬

(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 バクヤギクの花

撮影日：2018年04月19日

撮影場所：スニオン岬

(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



←写真-3 バクヤギクの葉

撮影日：2018年04月25日

撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて

撮影者：M さん





← 写真-4 バクヤギクの花

撮影日：2018年04月25日

撮影場所：サントリーニ島
(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

→ 写真-5 バクヤギクの開花直前

撮影日：2018年04月25日

撮影場所：サントリーニ島
(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



写真-1、2はギリシャのスニオン岬にあるポセイドン神殿を訪れた際、入り口近くに咲いていました。ポセイドン神殿は、エーゲ海を見下ろす丘の上。到着した時は、かなりの強風で、カメラを構えても、風に押し流されかかる状態。この風の中、遠目にはマツバギク？と思いつつ近寄って観ると、かなり大きい。何だろうと思い、カメラに納めました。写真-3～5は、数日後、サントリーニ島で宿泊したホテルの中庭にも咲いていました。

帰国後、調べて見ました。バクヤギク～カルポプロッス・キシレンシス(ハマミズナ科カルポプロッス属)でした。バクヤギクは、マツバギク属の近縁で、多肉質の果実を持つことが特徴です。果実は、南アフリカではホテントットのイチジクとして知られているそうです。残念ながら今回、果実は見当たりませんでした。

日本へは昭和頃に園芸種として輸入され、繁殖力が強く、耐塩性・耐乾性があるため、海岸近くで野生化しているそうです。倒伏し地面を這うように広がり、根を出して増えます。花茎を伸ばし、直径約12cmの、赤紫色や白色、淡黄色の花を付け、花弁は多数あり細い舌状で、葯は黄色です。日中の明るい時間に開花し、夜間や雨天・曇天の時は花を閉じます。

葉は輪生し、多肉質な3稜形です。果実は長さ17mm～20mmの卵形～球形です。裂開せず、熟すと柔らかくなります。

花壇や鉢植えに利用されるほか、原産地ではイチジク状の果実は食用にされるそうです。日本ではほとんど結実しません。日当たりが良く水はけの良い、乾燥した土を好み、挿し木で容易に増やすことができます。